

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第48期）

愛知県刈谷市 尾崎佳織

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

自治大学校第1部・第2部特別課程を卒業してから早いもので約2か月半が経過しました。今でも入寮日に立川駅から自治大学校までの約20分の道のりを少しの緊張と大きな期待を胸に歩いた日のことを昨日のこのように覚えています。

私の所属する自治体は毎年数名の研修生を派遣しており、前年度の第1部・第2部特別課程卒業生から引き継ぎを受けたのは派遣の2か月程前のことでした。そこからは事前課題やeラーニング、通常業務やその引継ぎ、入寮準備などで本当に慌ただしい日々となりましたが、自治大学校で過ごした約4週間の日々は間違いなく私の人生にとってかけがえのないものとなりました。そんな自治大学校での約4週間を改めて振り返ってみたいと思います。

2 入校前の日々

年末年始のバタバタとした日々に追われ、事前課題やeラーニングを開始したのは年始早々となってしまう、そのボリュームの大きさに取り掛かりが遅くなったことを少し後悔しました。それでも久しぶりの通常業務以外での学習は面白く、眠い目を擦りながら毎日受講し、同時に事前課題を仕上げていきました。

入校を数日後に控えた頃、市長や副市長、過去の卒業生に順次挨拶をして回り、「学習はもちろんのこと、全国の自治体職員と知り合い、交流できるまたとない機会になる。」「今後の糧になるから貴重な時間を楽しん

できて。」といったありがたいお言葉を頂き、気が引き締まると同時に、自治大学校での生活がとても楽しみになりました。

3 第1部・第2部特別課程第48期

第1部・第2部特別課程第48期は、北海道から沖縄まで全国から75名の女性が参加し、1月らしからぬ暖かさと快晴のなかで晴れて入学式を迎え、4週間の自治大学校での生活が始まりました。

学習内容は、座学の他にグループ討議やディベート演習、レポート作成で構成されており、グループ討議やディベート演習はもともと割り振られていたメンバーでの個別の演習を、また、レポート作成は1つの分野を選び、政策提言のレポートを仕上げるというものでした。正直に言って、この特定政策レポートが最も労力を要し、事例や文献を検索し、時にlogoチャットで担当部署に問い合わせ、そして仲間と励まし合いながら何とか仕上げる事が出来ました。

座学は、地方公共団体が担う行政分野全般にわたる総合的な研修科目で構成されており、全国から来られた一流の講師陣から講義を受講することができました。

これまでに全く関わりのなかった分野の講義もあり、全て理解できたと言われると怪しい部分もありますが、その分野の第一人者からお話が聞けたことは非常に有意義であり、新しい発見にもつながりました。

特に、人間関係論での「マインドセットは柔軟に変える」、「自信を持つ」、「誰かのコピーではなく、自分を知り、その延長上での振る舞いをする」といった言葉は、普段男性が多い職場の中で仕事をしている身としては

非常に心に刺さるものがありました。

講義では何度も少子高齢化、生産年齢人口減少といった社会変革の時代を迎えるにあたり、女性活躍やDX化、そしてそれを担う自治体職員の育成、そしてその心構えの話があり、自分にその重責が担えるだろうかという不安とともに、身が引き締まる思いで受講させていただきました。

4 班別討議及びディベート演習

班別討議やディベート演習は、あらかじめ割り振られたグループ毎に決められたテーマに沿ってディスカッションし、発表または討論をする演習で、限られた時間の中、仲間と意見を出し合い、それを集約することは大変な作業でした。特に、ディベート演習は事前の資料収集や論理の組み立て、何を軸に据えて相手に的確に伝えるかといったことに時間を費やしました。活発に意見を出し合う仲間がいたこと、担当教官から適切なアドバイスを頂けたことで、事例を基に、主張や反論、質疑、回答を用意することができ、良いディベートになったのではないかと思います。それもグループの仲間が互いに協力し、それぞれの得意分野を活かして助け合うことができたからだ感謝しています。

5 研修を通して

私はこれまで、機会がある毎に海外研修や外部派遣研修、先進地事例研修など、様々な研修に参加してきました。参加する度に多くの出会いや発見がありましたが、今回の自治大学校ほど濃密なものではなかったと思います。それは、4週間にわたり寮という非常に近い距離間の中で生活を共にし、講義や討議の現状、そして日頃の業務の悩みや想いを語る時間を共有する時間を持てたからこそだと思います。4週間の寮生活は、私にとっては非常に楽しいもので、部屋か

ら毎日富士山を望むことが出来るなど、立川市の自然も満喫することができました。今回、第1部・第2部特別課程に参加した75名は寮の3フロアに分かれて共同生活をしましたが、フロア毎に配置された談話室で、食事を共にし、話をすることで距離をぐっと縮めることができたように思います。週末には鎌倉や都内、ミュージカル鑑賞、そしてディズニーリゾートに出かけ、年齢は様々ながら束の間の学生気分を味わい、かけがえのない思い出をつくることが出来ました。



6 さいごに

私はどのような研修にも話があれば臆することなく参加するタイプですし、家庭環境面でも心置きなく送り出してもらえる恵まれた環境にいます。ただ、そうでもない方も沢山いることは承知しており、派遣の話があったときに躊躇される方もいることは承知をしています。今回、卒業生の声の執筆をしないかというお話があった時に、正直、年度変わりの忙しい中、どうしようかという迷いもありましたが、一人でも多くの方に自治大学校での実りある充実した日々を知ってもらい、その背中を押すきっかけになればと、つたない文章ながら当時の日々を思い出しながら執筆をしています。自治大学校での日々は間違いなく成長をさせてくれ、そして自信をつけてくれると思います。迷っている方がいたら、自分のためにも一緒に働く周りのためにも、是非一步を踏み出して欲しいと思います。